黒毛和種牛でCIDRを応用したOvsynch，PG，PG-Modified FastBackによる授精成績の検討

東播基幹家畜診療所　丹波診療所
○永岡正宏　田畑早智　門田文隆　今井正士　奥田紳一郎

丹波診療所ではこれまでに，膣内留置型プロジェステロン製剤(CIDR)を使用したOvsynchのプログラム授精を実施し受胎成績の向上に努めてきた。プログラム授精の定着につれ，より安価なプログラム授精の希望があり，CIDR-PGおよびCIDR-PG-Modified FastBackによるプログラム授精を実施しその成績について検討した。

材料および方法

1.調査期間：2014年1月～2014年12月

2.対　　象:丹波市内で1年間にプログラム定時授精を実施した黒毛和種繁殖経産牛のべ77頭。うち空胎日数の短縮を目的に繁殖治療の一環として実施したCIDR-Ovsynch（C-O）57頭，安価なプログラム授精の実施を目的にしたCIDR-PG（C-P）8頭，プロジェステロン濃度の補充により黄体機能強化と不受胎摘発を目的にしたCIDR-PG-Modified　FastBack（C-MF）12頭。

3.調査項目：プログラム実施時の年齢，分娩後日数，受胎率，不受胎牛の次回ＡＩまでの日数。

結果

1.プログラム授精実施年齢は全体で平均7歳，C-O群6歳8ヵ月（受胎7歳2ヵ月，不受胎6歳2ヵ月），C-P群6歳10ヵ月（受胎7歳，不受胎6歳9ヵ月），C-MF群9歳（受胎9歳2ヵ月，不受胎8歳10ヵ月）。

2.プログラム授精の分娩後日数は全体で平均141日，C-O群116日（受胎110日，不受胎125日），C-P群170日（受胎129日，不受胎210日），C-MF群218日（受胎212日，不受胎224日）。

3.プログラム授精による受胎率は全体で57.3%，C-O群58.9%，C-P群50%，C-MF群50%。

4.プログラム授精での不受胎牛の次回授精までの日数は，全体で平均57日，C-O群58日，C-P群67日，C-MF群39日であった。

まとめ

空胎日数の短縮を目的に実施したC-O群は，実施年齢と分娩後の開始日数が一番早く，受胎成績も3群中では1番であった。C-Oが定着していたが，農家からの要望でより安価なプログラム授精の実施を目的にC-Pを行った。C-Pは発情が不明瞭で，授精に至らない処置牛が目立ったので必ず授精するよう指示した結果，受胎率 50%，不受胎牛の発情回帰日数は長かった。他のプログラム授精の不受胎牛と長期不妊牛に対して，安価なプログラム授精でプロジェステロン濃度の補充による受胎促進効果，また不受胎牛の早期摘発が期待されるC-MFでは，実施年齢と分娩後日数が他の2群に比べ長かったが，受胎率は50%，次回発情までの日数はC-Oに比べて有意（＜0.05）に短縮した。全体に受胎牛は不受胎牛に比べ分娩後の日数は短かった。これは，分娩後早期に授精する事が大切であり，妊娠率を低下させる発情の見落としが無く定時に授精できるプログラム授精は推奨できる。

今後は，受胎率と不受胎牛の発情回帰の結果を考慮し，分娩後の早い時期にC-Oと合わせてModified FastBackを併用することが有効であると考えた。